

自社初の物流拠点稼働

医療用品製造のダイヤ工業（岡山市南区古新田）は、自社の物流拠点「ロジスティックセンター」を本社敷地内に整備し、今月から稼働させた。これまで外部に委託していた出荷作業を自社で行い、業務の効率化につなげる。

医療用品 出荷効率化 20万点保管



鉄骨平屋約1700平方メートルの倉庫兼事務所を新築。自社で製造するコルセットやサポーター、他社から仕入れる湿布薬など約4500種類・計約20万点を常時ストックし、注文を受けて即日発送する。

新方式の受注・在庫管理システムを導入。本社のオペレーターが

ダイヤ工業が整備したロジスティックセンター

電話などで受注した商品の情報をパソコンに入力すると、センターのスタッフの携帯端末に該当商品がどの棚に保管されているかを表示。別々の棚にある複数種類の商品を取り出すための最短ルートも割り出せる。投資額は約2億円。

スタッフは自社と外部を合わせ15人。輸送は従来通り運輸業者に委託する。

同社は全国の整骨院など約2万7千カ所に商品を供給。これまで運輸業者に在庫を預け、出荷作業も任せていた。物流拠点を持つことにより、出荷までの時間短縮を図るとともに、誤発送のリス

クを低減。倉庫の賃料 同封して出荷するなどが不要になりコストも圧縮できるとい

う。松尾正男社長は「商

品のラインアップが増えたのに伴い、物流の効率化や発送のミス防止がこれまで以上に重要になっている」と説明。「顧客一人一人に宛てたメッセージを

（伊東圭一）